



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

県が開発中の新ブランド米

2020年デビュー目指す

2月定例県議会一般質問

千葉県の活力向上へ力を注いでいる伊藤昌弘県議(佐倉市選出、3期)は2月定例県議会で一般質問に立ち、農業問題や道路問題、印旛沼の浄化・環境問題などについて森田知事ら県執行部に尋ねました。農林総合研究センターが開発に取り組んでいる米の新品种に



本会議で一般質問を行う伊藤昌弘県議

伊藤議員 近年、新しい品種の高級ブランド米が各地で誕生している。岩手県が開発したブランド米「銀河のしずく」がブランド米コンテスト「米のヒット甲子園」で大賞に輝いた。全国一のコメどころの新潟県からも新ブランド米「新之助」が今年、デビューする。

本県においても、ポストコシヒカリとなりうる新ブランド米の開発が待たれる。そこでうかがうが、米の新品种開発の今年度の取り組み状況はどうか。

農林水産部長 農林総合研究センターでは、コシヒカリより品質・食味に優れた新品种の開発に取り組んでおり、昨年度までに有望系統を一つに絞り込んだところ

に関する質問に対して、県農林水産部長は「東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年秋のデビューを目指す」と答弁、伊藤県議は「新ブランド米が選ばれるためには相当な販売戦略が必要」として、プロジェクトチームの早期立ち上げを要望しました。

普及に当たっては、品質・食味を向上させる栽培のポイントを明らかにし、県内各地の土壌や気象条件に適した栽培方法を確立する必要があります。

その結果、新品种候補はコシヒカリよりも収量が多く、9月の荒天にあっても稲が倒れづらいなど、栽培特性に優れていることが確認されました。

再質問

伊藤議員 発表・販売に向けて

ド米「つや姫」が、デビューの3年3か月前からブランド化のプロジェクトチームを組んで始めた。

販売戦略練るプロジェクトチーム必要

伊藤議員 米の新品种開発に係る今後の取り組み予定と、いつを目途に開発に取り組んでいるのかをうかがう。

農林水産部長 米の食味の専門機関の評価を基に、新品种の消費者への訴求方法を十分検討の上、プロジェクトチームを立ち上げ、他部署の協力も得ながら、他県のブランド米の販売戦略を参考に、効果的な広報・販売戦略を検討してまいります。

伊藤まさひろ・PROFILE

- 昭和30年 佐倉市に生まれる
- 昭和53年 日本大学法学部卒業
- 平成7年 佐倉市議会議員当選
- 平成11年 佐倉市議会議員再選
- 平成19年 千葉県議会議員当選
- 平成23年 千葉県議会議員再選
- 平成27年 千葉県議会議員3選

- 千葉県議会 農林水産常任委員会委員
- 日大習志野高校同窓会 会長
- 佐倉リトルシニア野球協会 会長

●県政や佐倉市のまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談下さい!!

伊藤まさひろ 県議事務所 TEL.043-485-8019 FAX.043-486-1616

伊藤まさひろ県議会レポート

県道佐倉印西線の神門交差点 主要渋滞箇所、改良設計に着手

伊藤議員 国道51号と佐倉印西線を結ぶ交差点である神門交差点は大型車両が頻りに通行し、自転車や歩行者の通行には極めて危険な箇所が見受けられる。

また、この道路の一部は通学路となっており、生徒の通学時においても、極めて危険な状況となっている。

この交差点の右折レーンを含む改良と、歩道の整備は地元にとって長年の要望であったが、調整が難航し、長い間、凍結状態にあった。

ところが最近、交差点を含む土地を地元の企業が購入した。その企業と話がまとまれば、今後は交差点改良や歩道の整備などが進められ、地元の長年にわたる

要望もかなえられる。さらには課題であった、慢性的渋滞の緩和にもつながる。

そこでどうかがうが、県道佐倉印西線の神門交差点の改良について、県の考えはどうか。また、今後どう取り組んでいくのか。

県土整備部長 国道51号と県道佐倉印西線が交差する神門交差点は、国や県などからなる「首都圏渋滞ボトルネック対策協議会」が特定した主要渋滞箇所に位置付けられており、歩行者の安全と交通の円滑化に向けた交差点改良が必要であると認識しています。

当該交差点については、これまで用地の確保が課題でしたが、議員ご指摘のよう

印旛沼流域のカミツキガメ 絶滅へわな設置増やす

伊藤議員 印旛沼流域に生息するカミツキガメの駆除についてうかがう。実態調査の結果を踏まえ、今年度の取り組み状況はどうか。

環境生活部長 実態調査では、個体数を減少させるために、最低でもメス1250頭以上の捕獲が必要と

されました。これを踏まえ、今年度は、新たに生息が判明した河川や用水路にもワナを設置するとともに、ワナの引き上げ回数を増やしました。

その結果、昨年度の1.5倍の1411頭を捕獲しましたが、このうちメスは約700頭であり、目標とする捕獲数には及びませんでした。

また、これまでカミツキガメの行動パターンについて不明な点が多かったことから、発信器を用いた行動調査を実施し、効果的な駆除方法を検討するための基礎情報を収集してきました。

こうした調査結果や、昨年7月に設置した防除検討会における専門家の助言などを参考にしながら、捕獲

方法や捕獲体制の見直しを行うとともに、カミツキガメの根絶に向けた中長期のロードマップを作成しているところでです。

伊藤議員 平成29年度は、どう取り組むのか。



再質問を行う伊藤昌弘県議

環境生活部長 平成29年度は、今年度の結果を踏まえ、新たに採用したカメの生息に精通する職員の専門的知見も活用し、様々な生息場所の条件に合わせた捕獲方法の開発や、これまで困難であった冬眠中の捕獲に取り組みます。

また、新たに農業者の協力を得て、これまで対策を行っていなかった農業用水路や水田にも捕獲の対象箇所を拡大します。

さらに、ワナの設置箇所と引き上げ回数を大幅に増

やし、カミツキガメの根絶を目指してまいります。

させるなどの支障が無いよう、大和田排水機場に近い桑納川や神崎川において、駆除を行っています。

佐倉印西線田代バイパス 鉄道交差部計画 早期に具体化へ

伊藤議員 県道佐倉印西線田代バイパスの進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道佐倉印西線田代バイパスについては、線形の悪い区間の解消と交通混雑の緩和を図るため、佐倉市田町の国道29

6号から岩名運動公園に至る1.5キロメートルで、現道拡幅やバイパス整備を進めています。

このうち、現道拡幅区間の0.5キロメートルについては、まとまった用地が確保できたところから順次、歩道整備等を行っています。

また、バイパス区間の1.0キロメートルについては、交差する鉄道の事業者との調整をしつつ、交差部の検討や接続する道路の設計を実施し

ているところです。

今後、早期に鉄道交差部の計画を具体化させるとともに、地元の皆様のご理解とご協力を頂きながら、残る用地の取得を進め、事業の推進を図ってまいります。

伊藤議員 鉄道交差部の計画が具体化すれば、このバイパス事業は大きく前へ進む。ぜひとも、早期に具体化していただけるよう強く要望する。

ナガエツルゲイトウ ボランティア学生と 協働して駆除を実施

伊藤議員 ナガエツルゲイトウの駆除について、今年度の取り組み状況と今後の取り組みはどうか。

県土整備部長 県では、洪水時に流出したナガエツルゲイトウの群落が、排水機場のスクリーンを閉塞

させるなどの支障が無いよう、大和田排水機場に近い桑納川や神崎川において、駆除を行っています。

特に、今年度からは、特定外来種駆除の実績のあるボランティア学生団体と協働で、駆除を実施しています。

これまでの駆除活動の検証で、継続的な駆除が繁茂の抑制に有効であるという知見が得られたので、これを踏まえ、引き続き、市民団体や大学等と連携し、計画的・効率的な駆除に努めてまいります。

伊藤議員 浄化槽の法定検査の未受検解消に向け、どのような取り組みをいくのか。

印旛沼流域かわまちづくり計画 高崎川南公園周辺 新たな水辺拠点に

伊藤議員 「印旛沼流域かわまちづくり計画」についてうかがう。今年度の取り組み状況と今後の取り組み

環境生活部長 県では、未受検解消に向け、抜本的な対策が必要と考え、「建築確認等の浄化槽の設置段階から、確実に受検申込がされる仕組みづくり」「保守点検業者等の関係機関と連携した受検促進の徹底」などを検討しているところです。

また、これらの取り組みを行うことで申込件数の増加が見込まれることから、検査体制の強化も必要です。このため、現在、県内1箇所である指定検査機関を、平成29年度からは複数とするため、12月に、新たな法人を公募し、現在、指定に向けた審査を進めているところで

伊藤議員 「印旛沼流域かわまちづくり計画」についてうかがう。今年度の取り組み状況と今後の取り組み

環境生活部長 「印旛沼流域かわまちづくり計画」では、県と市町が協力して

伊藤議員 「印旛沼流域かわまちづくり計画」についてうかがう。今年度の取り組み状況と今後の取り組み